1. 略歴

- 1989年3月 大阪大学文学部史学科西洋史学専攻 卒業
1991年3月 大阪大学大学院文学研究科 博士前期課程史学専攻 修了
1997年9月 同 博士後期課程 単位修得退学
1997年11月 パリ第1大学 博士(歴史学) 学位取得
1999年10月 大阪大学大学院文学研究科 助手
2000年4月 徳島大学総合科学部 助教授
2012年4月 上智大学文学部史学科 准教授
2014年4月 同 教授
2016年4月 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 主要業績

(1) 単著

Les conseillers municipaux de Paris sous la Troisième République (1871-1914), Paris, Publications de la Sorbonne, novembre 2002

『歴史がつくった偉人たち—近代フランスとパンテオン—』山川出版社、2007年6月

(2) 共著

『近代フランスの歴史—国民国家形成の彼方に—』谷川稔・渡辺和行編、ミネルヴァ書房、2006年2月、担当章：第5章「対独敗戦から急進共和国へ」およびコラム「第三共和政の歴史的位置」「共和国の聖人」、145-172頁

『大学で学ぶ西洋史 [近現代]』小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編、ミネルヴァ書房、2011年4月、担当章：第5章第4節「フランスの共和政と国民統合」およびコラム「ライセンスとは何か」、153-160頁

『教養のフランス近現代史』杉本淑彦・竹中幸史編、ミネルヴァ書房、2015年6月、担当章：第7章「民主と元首の相剋」、103-118頁

『新しく学ぶ西洋の歴史』南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編、ミネルヴァ書房、2016年2月、担当章：第6章総論「開国時の世界」および第7章第2節「共和政フランスの内と外」、141-142、173-174頁

(3) 論文

「19世紀のパリ警視庁—その管轄をめぐる議論を中心に—」『西洋史学』第164号、1992年3月、36-52頁

「19世紀のパリ市議会議員」『帝塚山大学教養学部紀要』第56輯、1999年1月、33-58頁

「第三共和政期のパリ市議会議員(1871-1914年)」『史林』第82巻第4号、1999年7月、37-72頁

「フランスにおける自治体史—首都パリとその郊外の事例—」『歴史科学』第164号、2001年4月、44-54頁

「議員とその資産—第三共和政前半期(1870-1914年)のパリ市議会議員の事例—」『社会経済史学』第67巻第6号、2002年3月、51-68頁

「都市空間と宗教—19-20世紀パリの事例から—」(川北稔・藤川隆男編『空間のイギリス史』山川出版社、2005年2月)、104-116頁

「19世紀後半のパリにおけるカトリック教会と入移民—地方出身者を中心に—」『関学西洋史論集』第31号、2008年3月、11-17頁

「歴史研究と記憶—西洋史学の立場から—」『フランス哲学・思想研究』第13号、2008年12月、39-47頁

“Histoire municipale en France : l'exemple de la région parisienne,” *Bulletin de la Société historique de Suresnes*, tome XI, no. 53, juillet 2009, pp. 47-59.

「プロソポグラフィとミクロの社会史—フランス近現代史研究の動向から—」『思想』第1032号、2010年4月、143-159頁

「貧しさのなかで生きること—近代フランス都市住民の日常性と共同性—」『歴史学研究』第886号、2011年11月、53-63頁

「都市における移住者と文化—19世紀パリにおける地方出身者の事例—」『史林』第95巻第1号、2012年1月、178-208頁

- 「自由・国民・秩序—共和政フランスと警察—」(林田敏子・大日方純夫編『警察(近代ヨーロッパの探求 13)』ミネルヴァ書房、2012年1月)、197-233頁
- 「近代フランスにおける死の習俗—カトリックと共和派の対比を中心に—」『上智ヨーロッパ研究』第5号、2013年2月、3-21頁
- 「個人の史料からみる歴史—近代フランスの場合—」(上智大学文学部史学科編『歴史家の窓辺』上智大学出版、2013年7月)、243-264頁
- 「カトリシズムとデモクラシーのはざま—一世紀転換期フランスにおける聖職者の市民意識と自分史—」(槇原茂編『個人の語りからひらく歴史—ナラティヴ/エゴ・ドキュメント/シティズンシップ—』ミネルヴァ書房、2014年10月)、203-236頁

(4) 訳書

- (共訳) ピエール・ノラ編『記憶の場—フランス国民意識の文化=社会史—』(全3巻、岩波書店、2002年11月~2003年3月)、第3巻の共同監訳および以下の論考の翻訳: ピエール・ノラ「記憶と歴史のはざまに」第1巻29-56頁、モナ・オズーフ「パンテオン—死者たちのエコール・ノルマル—」第2巻105-137頁、クリスチャン・アマルヴィ「7月14日—<怒りの日>から<祝祭の日>へ—」第2巻141-193頁、ジャン=ポール・ドゥムール「ラスコー」第3巻263-303頁、パスカル・オリイ「ガストロノミー(美食)」第3巻389-425頁

(5) 小論、書評、その他

- (書評)「谷川稔著『十字架と三色旗—もうひとつの近代フランス—』」『史潮』新45号、1999年5月、153-160頁
- (翻訳) アラン・フォール「彼らはいかにして『パリ人』となったか—19世紀末パリ移住民の統合をめぐる—」『西洋史学』第195号、1999年12月、42-59頁
- (翻訳) イヴ=マリー・ベルセ「近世フランスの農民叛乱の一考察」『EX ORIENTE』第3号、2000年4月、245-256頁
- (翻訳) ピエール・ノラ「記憶と歴史のはざまに—記憶の場の研究に向けて—」『思想』第911号、2000年5月、13-37頁
- (書評)「阿部安成・小関隆・見市雅俊・光永雅明・森村敏己編『記憶のかたち—コメモレイションの文化史—』」『西洋史学』第198号、2000年9月、74-78頁
- (学界動向)「現代—フランス(回顧と展望)」『史学雑誌』第111編第5号、2002年5月、375-379頁
- (書評)「槇原茂著『近代フランス農村の変貌—アソシアシオンの社会史—』」『社会経済史学』第69巻第5号、2004年1月、108-110頁
- (書評)「中野隆生編『都市空間の社会史—日本とフランス—』」『西洋史学』第217号、2005年6月、72-75頁
- (翻訳) ジャン=クレマン・マルタン「フランス革命史研究の現状と展望」『関西学院史学』第33号、2006年3月、109-127頁
- (項目執筆)『ヨーロッパ近代社会の形成から帝国主義へ—18・19世紀—(世界史史料6)』(歴史学研究会編、岩波書店、2007年3月)、担当項目:「英仏通商条約」など10項目
- (研究動向)「都市の入移民と文化—19世紀パリの事例から考える—」『史潮』新66号、2009年11月、47-56頁
- (書評)「高澤紀恵著『近世パリに生きる—ソシアビリテと秩序—』」『社会経済史学』第75巻第5号、2010年1月、99-101頁
- (書評)「松田祐子著『主婦になったパリのブルジョワ女性たち—100年前の新聞・雑誌から読み解く—』」『西洋史学』第238号、2010年9月、79-81頁
- (書評)「ベルナル・マルシャン著(羽貝正美訳)『パリの肖像—19-20世紀—』」『図書新聞』第3007号、2011年3月、5頁
- (書評)“Jean-Luc Azra, et al., *La société française : lecture et civilisation*,” *The Language Teacher*, vol. 36, no. 4, July 2012, pp. 68-69.
- (学会報告)「18~19世紀: 伝統都市の自治と公共秩序—ルールとブリュッセルを事例に—」『年報都市史研究』第20号、2013年3月、169-171頁
- (書評)「荒又美陽著『パリ神話と都市景観—マレ保全地区における浄化と排除の論理—』」『史林』第96巻第6号、2013年11月、113-118頁
- (項目執筆)『世界人名大辞典』(岩波書店、2013年12月)、担当項目:「アヴェアス」、「アギュロン」、「アリエス」など115項目
- (学会シンポジウム記録) 槇原茂・長田浩彰・寺田由美・長井伸仁「市民の自分史—前世紀転換期から戦間期におけるエゴ・ドキュメント—」『西洋史学』第252号、2014年3月、47-58頁

(書評)「小田中直樹著『19世紀フランス社会政治史』『西洋史学』第253号、2014年6月、74-76頁

(6) **口頭発表**

「第三共和政期のパリ市議会議員（1871-1914年）」広島史学研究会大会、於広島大学、1998年11月29日

(共同)「ピエール・ノラ編『記憶の場』をどう読むか—日本語版の投げかけるもの—」東京外国語大学海外事情研究所主催シンポジウム、於東京外国語大学、2002年3月16日

「歴史意識の変容とフランスのゆくえ」関西フランス史研究会大会、於京都大学、2002年10月14日

「歴史研究と記憶—西洋史学の立場から—」日仏哲学会2008年春季研究大会、於同志社大学、2008年3月22日

「近代のパリにおける地方出身者とカトリック教会—第三共和政前半期（1870-1914年）を中心に—」第13回ワークショップ西洋史・大阪、於大阪大学、2008年6月21日

「都市の移民と文化—19世紀後半のパリにおける地方出身者の事例—」日仏歴史学会第2回研究大会、於奈良女子大学、2010年3月27日

“Impossible liberté : les historiens japonais à l'épreuve de la modernité,” Symposium: Philosophical researches on the phenomenon of 'Liberty': an interdisciplinary dialogue, Saint Tikhon University, Moscow, Russia, 23 November 2010

「世紀転換期フランスにおける聖職者の市民意識と自分史—ピエール・ダブリ（1864-1916）—」第63回日本西洋史学会大会、於京都大学、2013年5月12日

(7) **受賞**

1998年度地方自治体研究博士論文賞・審査員特別賞（フランス共和国 国立科学研究センター・ヨーロッパ地域行政研究所）[Prix de thèse 1998 sur les collectivités locales, Prix spécial du jury (Centre national de la recherche scientifique, Groupement de recherche sur l'administration locale en Europe)], 1999年5月25日

3. **主な社会活動**

(1) **非常勤講師**

大阪外国語大学外国語学部（1998～2000年度）

帝塚山大学教養学部（1998～1999年度）

帝塚山学院大学文学部（1999年度）

神戸市外国語大学外国語学部（2000～2004年度）

高知大学人文学部（2001年度）

放送大学徳島学習センター（2002～2003年度）

大阪大学文学部（2006年度）

徳島大学総合科学部（2012年度）

岡山大学文学部（2015年度）

上智大学文学部（2016年度）